

兵庫県のみ漁場環境情報 (西播海域 5号)

2021年11月25日発行
 兵庫県のみ研究所

大型珪藻コシノディスカスが海域全体に発生しており、西寄りの風波による底層からの巻き上げもあり、発生量は表層で増加しています。そのため、窒素は地先漁場で1 $\mu\text{g-at/L}$ 前後、沖合漁場で概ね1 $\mu\text{g-at/L}$ 台でした。

(珪藻)

各海域のコシノディスカス発生量(海水1Lあたり)は以下の通り。

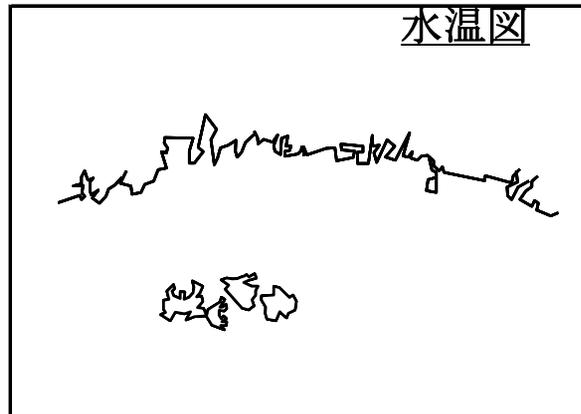
地先漁場: 1000~1900細胞(前回値: 150~1200細胞)

沖合漁場: 700~2500細胞(前回値: 100~1500細胞)

沖合漁場では西側で細胞数が多く、東側では少ない。

コシノディスカスの色素は前回調査(11/12)と比較して沖合漁場東側では薄くなっており、活力は低下していると思われる。

水温図



		前回値	今回値	平年値	昨年値
西播地先	窒素	0.8	0.7	6.0	2.5
	リン	0.37	0.29	0.66	0.58
家島・坊勢	窒素	1.9	1.3	5.6	2.1
	リン	0.53	0.38	0.71	0.61

(11/12) (11/25)

栄養塩(窒素) 図

2021年11月25日調査

